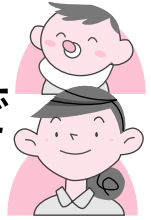


【2】子育て支援活動等

児童虐待等の予防に民児協活動として取り組むために

事例 1

赤ちゃん誕生「おめでとう訪問事業」で親子と知り合い、子育て支援につなぐ



DATA

大分県佐伯市上堅田地区民生委員児童委員協議会
民生委員・児童委員9名、うち主任児童委員1名 世帯数：約1,800世帯

「おめでとう訪問事業」で家庭を訪問

佐伯市は人口約7万8千人、17の地区民児協があります。

佐伯市民児協ではさまざまな子育て支援活動を行なっています。その一つ「おめでとう訪問事業」の取り組みは、お祝いのメール（ハガキ）を通して赤ちゃんの誕生を親とともに喜び、関わりを持つことで交流を深めることを目的に、平成14（2002）年度から始まりました。市民児協主任児童委員部会の提案によって市内全域で取り組まれ、平成16（2004）年度には大分県民児協の取り組みによって「新生児ハッピーメール運動」として全県に活動が広がりました。

アンケートを通して課題等を把握

佐伯市民児協では、市から提供される出生情報をもとに、赤ちゃんが誕生した家庭に「お誕生おめでとう！」のハガキを主任児童委員から送ります。そのハガキは区域担当児童委員と主任児童委員の連名にし、手書きで2人の連絡先とメッセージを添えて、近日中に訪問することも知らせます。そして生後3か月頃に、区域担当児童委員と主任児童委員2人ペアで、プレゼントを持って訪問します。

訪問時には子育てについてのアンケートをお願いしています。「育児に協力者はいますか？」「困っていることはありますか？」など13項目の簡単なアンケートを通して、養育環境、親が抱える課題や困りごとなどを把握します。

この「おめでとう訪問」活動は、平成23（2011）年度より市の「乳児家庭全戸訪問事業」と連動させて、保健師と連携して行なわれています。訪問した結果は、「乳児家庭全戸訪問記録票」に記録して担当保健師に提出されます。

しかし、訪問を拒否する家庭もあり、行政から情報が提供されないケースがあ

ります。平成23年度の佐伯市の出生数は468人で、上堅田地区では32人でしたが、約1割の家庭が訪問できず、そうした家庭への見守り・支援が課題となっています。また、オートロックマンション等の家庭や、留守の多い家庭の訪問には苦勞しています。

地域で子どもたちの健やかな成長を支援

訪問活動は1歳のお誕生日にも行ない、新生児誕生のお祝いはタオルハンカチを、1歳のお誕生日には絵本をプレゼントしています。

訪問の際は、子育てサロンへの参加も呼びかけます。上堅田地区社協と地区民児協の主催で開催している子育てサロン「ピヨピヨサロン」は、親子の絆を深めるとともに、親同士での学び合いや支え合いの場にもなっています。

そして、こうした取り組みにより児童委員、主任児童委員の認知度もアップし、地域との連携も密接になりました。子育てサロンの運営を積極的にサポートしてくれるボランティアや、地域のさまざまな情報を提供してくれる住民も増えてきました。

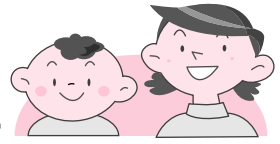
同時に、「おめでとう訪問」活動の実績から、保健師との連携が大きな力になっています。保健師と情報を共有することで支援がスムーズになります。上堅田地区をはじめ佐伯市の民児協では、新生児の親の不安や悩みの解消に向けて、子育て支援活動に今後も取り組んでいきます。



家庭を訪問し、プレゼントを手渡す区域担当児童委員と主任児童委員

事例 2

赤ちゃん誕生訪問が 親同士の絆づくりのきっかけに



DATA

奈良県香芝市民生委員児童委員協議会
民生委員・児童委員 96名、うち主任児童委員 6名 世帯数：約2万9千世帯

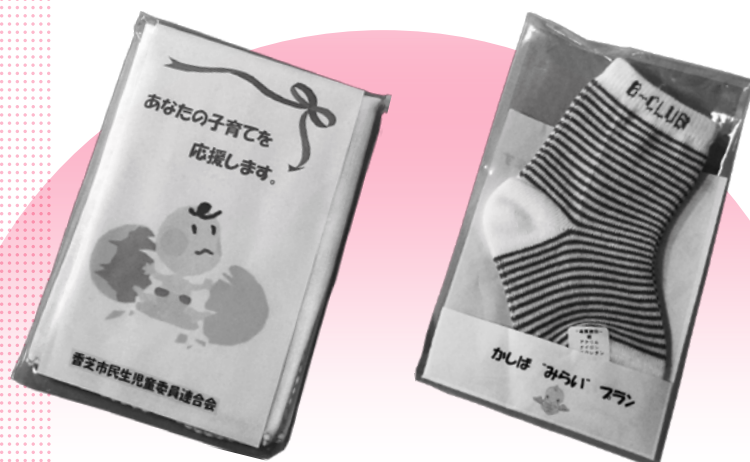
転入世帯の多い地域での子育て支援活動

香芝市は、人口約7万7千人、3つの地区民児協があります。大阪への交通の利便性から人口が増加し、子育て世代が多いことが特徴です。香芝市民児協では、子育て中の家庭や親子が地域から孤立しないように、「赤ちゃん誕生おめでとう訪問」等の子育て支援活動に取り組んでいます。

平成18(2006)年にスタートした「赤ちゃん誕生おめでとう訪問」は、出生数が年間約700～750人に達する香芝市において、大きな役割を担っています。

4か月児健診で「赤ちゃん訪問」の意思を確認

「赤ちゃん誕生おめでとう訪問」は、4か月児健診の際のアンケートで「訪問してよい」と回答のあった家庭に対して実施されます。区域担当児童委員が主任児童委員とともに訪問し、お祝いとしてハンカチなどを渡して、「何か困ったことがあれば連絡してください」と声をかけます。



「赤ちゃん誕生おめでとう訪問」で家庭に渡すハンカチやくつ下

半数近くが訪問を承諾しますが、承諾しない家庭や健診にさえ訪れない家庭の地域からの孤立が懸念されます。香芝市では4か月児健診の際に絵本を配布する事業を行っており、未受診家庭へは、市の依頼を受けて区域担当児童委員が絵本を届けに訪問します。それでも面会できなかった家庭については、市の保健センターに報告して適切な対応を行なってもらいます。こうした取り組みが、虐待等の問題の早期発見と支援につながっています。

親子とのつながりを広げ、地域からの孤立を防ぐ

訪問活動を続けるうちに、親の希望を受けて開催するようになったのが子育てサロン「きゅうぴいクラブ」です。訪問活動によってつながりの生まれた多くの親子との関係をさらに広げるために、主任児童委員と児童委員との連携により、市内6か所で各会場隔月1回開催しています。

子育てサロン「きゅうぴいクラブ」では、手づくりおもちゃによる遊びのほか、乳幼児の救命救急の講座、乳幼児の栄養講座などの子育てに役立ち、関心を持ってもらえるような行事を、消防署や市の栄養士など関係機関・専門職の協力を得て実施しています。

ベッドタウンという地域特性もあって、毎回30～40人が参加する会場もあるなど、「きゅうぴいクラブ」の活動は親同士の絆づくりの貴重な場として、すっかり定着しています。

香芝市民児協がめざすのは「顔の見える活動」であり、自治会、老人クラブ、PTAと連携して登下校時の見守り活動を行なうなど、日頃から地域と協働した活動をすすめることにより、地域の仲間意識も強まっています。そして、香芝市民児協では、児童委員、主任児童委員が負担に感じることなく、楽しみながら活動を継続できるよう心がけていきたいと考えています。



子育てサロン「きゅうぴいクラブ」に集まる多くの親子

事例 3

民生委員・児童委員ならではの 子育て支援活動～子育てサロン「はとぼっぼ」



DATA

東京都 福生市民生委員・児童委員協議会
民生委員・児童委員52名、うち主任児童委員4名 世帯数：約2万9千世帯

民生委員・児童委員ならではの子育てサロンをめざして

福生市民児協では子育てサロンを運営し、児童虐待等の課題の早期発見・対応に努めています。市内には、さまざまな子育て支援を行なっている団体がサロン等を運営していますが、民生委員・児童委員ならではの子育てサロンをめざして、委員全員で取り組んでいます。

地域の親子と知り合い、支え合う活動を展開するために、子育てサロン開催の準備を始めたのは平成15(2003)年。まず、委員全員が、市社協が立ち上げた子育てサロンを手伝って活動を体験し、子育て支援に関する勉強会も実施しました。そして、平成16(2004)年、子育てサロン「はとぼっぼ」の活動が始まり、地域の関係機関、団体と連携しながら、親子が楽しく遊べる時間、親がほっとできる時間を提供しています。

親子のふれあいと、母親同士の仲間づくりの場

子育てサロン「はとぼっぼ」は、市の会館の和室を借りて月1回(毎月第2金曜日)開催しています。サロン開始から1時間ほどは、親子と一緒に歌ったり、おもちゃで遊んだりして楽しく過ごす「親子のふれあいタイム」です。その後、委員は子どもたちの遊び相手となり、母親たちは「ティールーム」でお茶を飲みながら語り合います。このティールームでの時間は、育児に追われる母親が思いや悩みを語り合い、仲間づくりにつながる大切な機会になっています。

最近では、「ふれあいタイム」に親子の“スキンシップ体操”を取り入れています。スキンシップ体操をすることで、肌のふれあいの心地よさを身体で感じ、親も子も心から喜び合うことができるよう企画しました。また、「ティールーム」では年に数回、市の保健師によるお話や育児相談の場も設けるなど、工夫を重ねています。男性委員が活躍しているのも大きな特徴で、特に男の子の遊び相手としてたくさんの親子から慕われています。また、平成24(2012)年7月からは当番制を導入

して委員全員がかかわるようにしました。全員が体験することで地域で親子に声かけしやすくなるなどの成果が出ています。



委員全員が当番制でかかわる子育てサロン「はとぼっぼ」

インターネット世代の親に向けて 子育てサロンのPRにホームページを活用

「はとぼっぼ」は、乳幼児と親、妊婦を対象にしています。参加の呼びかけはチラシなどが使われますが、現在最も大きなPR効果を発揮しているのは市民児協のホームページです。平成16(2004)年にホームページを開設し、同時期にスタートした「はとぼっぼ」のPRのためのホームページもつくりました。

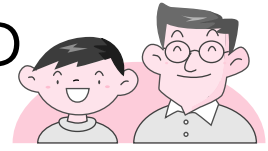
子育て中の親は、日常的にインターネットを活用する世代であり、多くの情報をインターネットで集めています。そこで、サロンの様子を写真も載せて紹介し、ホームページの担当委員が毎月、内容を更新しています。それだけに、PR効果は大きく、ホームページを見てサロンを訪れる親子が増えています。

福生市民児協では、サロン活動を通して委員が母親の心の支えとなる一方で、保健師などの専門家や専門機関と連携しながら支援しているため、問題に早期に対応できたケースも報告されています。

福生市民児協では今後も、ホームページをはじめ住民のニーズに合わせた情報提供を心がけ、児童委員、主任児童委員が一体となって「子どもが安心して育つことができるまちづくり」をすすめていきたいと考えています。

事例 4

親子や地域とのふれあいのための「子育て支援マップ」づくり



DATA

岐阜県岐阜市方県地区民生委員児童委員協議会
民生委員・児童委員9名、うち主任児童委員2名 世帯数：約1,000世帯

未就園児親子へ子育てに関する情報を提供

岐阜市方県地区民児協では、平成12(2000)年から未就園児の子育て家庭の支援に取り組み、とくに0歳～1歳児の子育て中の家庭を支援する活動の一つとして子育て支援マップを作成しています。

子育て支援マップは、市内の50地区すべてで作られており、乳幼児親子が活用できるように、市役所の子ども家庭課、保健センター、保育所や幼稚園、公民館児童館や児童センター、病児・病後児保育の小児科医院など幅広い場所で配布しています。

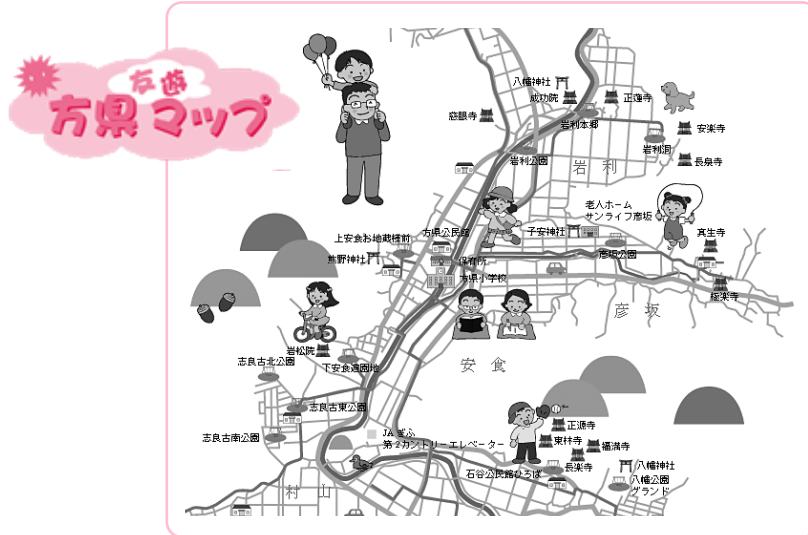
委員が実際に歩いて「子育て支援マップ」を作成

方県地区の「方県子育て支援マップ」は、子育て支援機関や医療機関、子育て支援活動の紹介とともに、公園や遊び場、通学路、子ども110番の家など学齢児童に関わる情報も掲載しています。また、地域に親しんでもらうために、史跡、祭礼などの地域の特色、川や野原に生息する動植物などの情報も加えています。

作成にあたっては、児童委員、主任児童委員が中心となって、それぞれが実際に歩いてみて、公園の遊具、トイレ、ベンチなど細かなところまでチェックしました。その過程で遊具などに危険か所が見つければ関係機関に修理を要請したり、点検活動ともなりました。地元の歴史に詳しい高齢者から史跡の話を聞くなど、地域と密接に連携して作成をすすめました。

こうして記録された子育て支援マップは、ライオンズクラブの助成により作成され、多くの子育て家庭で活用されています。特に親子のふれあいや地域とのふ

れあいに役立つという感想が寄せられ、民児協内でも地域課題に対する意識が高まり、活動の活性化にもつながっています。



方県地区のマップの一部

児童委員、主任児童委員を知ってもらい、親子の孤立を防ぐ

民児協では青少年育成市民会議と協力して0歳児を対象とした「親子ふれあい教室」を開催しています。この教室で知り合った親子が自主サークルを結成し、0歳～1歳児グループ、1歳～2歳児グループ、2歳～3歳児グループの3つのグループが、それぞれ校区公民館で毎月2回活動しています。児童委員、主任児童委員はこうした場に参加して、相談相手になったり、子育てに関する情報を提供したり、支援の機会を増やしています。人形劇や紙芝居を企画したり、クリスマス会では男性委員がサンタ姿でプレゼントを配るなど、親子との関わりを深めながら支援を行なっています。

また、方県地区民児協では、委員名簿を各戸に配布していますが、年度初めには子育てサークル等の各会場でも、児童委員、主任児童委員の紹介をします。全民児連作成の名刺型のリーフレット（PRカード）を活用して、活動内容と各委員の担当区域を紹介し、「子育ての悩みに親身になって相談にのります」と呼びかけています。今後も、育児に役立つ情報を提供しながら、親子に寄り添い相談にのることで、子育て家庭の孤立を防ぐ取り組みを続けたいと考えています。